

稲敷市消防団だより



創刊号

令和6年7月発行

いろは



火を消して
不安を消して
つなぐ未来



ご挨拶

稲敷市消防団長

稲箸 稔

平素より消防団活動に対しご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

現在、稲敷市消防団では939名が在籍し、火災や水害時の活動のほか、警戒活動や啓発活動など地域の消防防災を支える活動を行っております。しかしながら近年では団員の減少がみられることが現状であります。この度、消防団の活動や理念を知っていただき「自分たちの地域は自分で守る」という意識を共有していただきたく、消防団広報誌「いろは」を発行することとなりました。非常時だけでなく平常時から地域に密着した活動を行い、住

民との交流を深めることで地域防災力の強化に努めてまいります。

近年では大規模災害が多発し、稲敷市内においてもいつどのような災害が起こるかわかりません。そのような中で消防団に対する期待も大きなものであると感じております。

今後とも郷土愛護の精神に基づき、より一層の組織力向上を図り、地域に愛される消防団を目指し精進していきたいと考えておりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



創刊にあたって

稲敷市長

寛 信太郎

「稲敷市消防団だより」が創刊されますこと、心よりお祝い申し上げます。

消防団の皆様には、郷土を愛するボランティア精神のもと、日夜消防・防災活動にご精励いただき、心より感謝申し上げます。また、その活動を支えてくださっております

でございます。ご理解ご協力に對しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、風水害を中心とする災害の多発化・激甚化に伴い、消防団の活動は益々重要になってきております。そのような中、さらに地域防災力を高めていくためには、消防団の活動のみに限らず、市民の皆様

一人ひとりが防災意識をもっていくことも大切になってまいります。この広報誌の発行により、防災に関する知識の普及や、消防団と市民との連携が深まり、地域防災の向上・発展につながることを大いに期待しております。

また、市としても、災害に強い安心・安全なまちを目指して、防災体制の充実・強化に努めてまいります。

結びに、稲敷市消防団の益々のご発展と団員各位のより一層のご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

消防団組織図

団長 稲箸 稔

副団長 山口 康行

副団長 黒田 茂勝

機能別消防団
(市役所消防隊)

第1方面隊長
笹本 裕一

第2方面隊長
小嶋 友幸

第3方面隊長
伊藤 奨

第4方面隊長
谷田貝 和弘

女性消防団

第1方面隊
本部員

第2方面隊
本部員

第3方面隊
本部員

第4方面隊
本部員

方面隊	分団	地区名	部	構成地区
第1方面隊	1	江戸崎	1	西町、根宿、切通
			2	天王
			3	大宿、本宿、荒宿
			4	戸張、浜、新宿
			5	門前第1、門前第2、田宿
			6	犬塚本郷、荒野
			7	小角、新山
	2	君賀	1	上君山
			2	上君山の一部(中郷)
			3	下君山
			4	松山
			5	羽賀
			6	村田
	3	沼里	1	月出里
			2	上蒲ヶ山
			3	下蒲ヶ山、沼田台
			4	時崎、小羽賀
			5	沼田
			6	花指
	4	鳩崎	1	鳩崎本郷
			2	野原
			3	古渡
			4	佐倉
			5	稲波
	5	高田	1	岡
			2	須賀
			3	椎塚
			4	駒塚
			5	桑山、南ヶ丘
第2方面隊	6	根本	1	羽黒、別府、朝日向 六軒口、横町、三ツ家 中下宿上宿、下南、塩沼
			2	谷津、下宿、種小屋、沓掛 天神谷津
			3	中山、角崎、狸穴
			4	曽根
	7	柴崎	1	伊佐津
			2	戌渡、伊崎、太田新田
			3	九軒
			4	新宿
			5	寺地
			6	寄居
	8	太田	1	谷中、新宿、大沢、舟戸 上宿
			2	田中、仲門、中宿、下宿
			3	寺内、小野
			4	堀川根方、舟戸、堀川新田

方面隊	分団	地区名	部	構成地区
第3方面隊	9	浮島	1	浮島東(神落、尾島、 原口前原、東前原、小舟戸)
			2	浮島中央の一部 (和田、勝木)
			3	浮島中央の一部 (柳縄、仲郷) 浮島西(前浦、東戸崎、 西戸崎、西の洲)
	10	阿波	1	須賀津
			2	甘田
			3	阿波
			4	四箇
			5	神宮寺
	11	古渡	1	柏木、堀之内、羽生
			2	上宿、田宿、谷津
			3	下宿、古谷、出戸、渋川 大坪
			4	飯出、岡飯出
			5	三次
			6	馬渡
第4方面隊	12	南	1	余津谷、清久島、橋向
			2	押砂
			3	曲淵、四ツ谷、六角
			4	結佐
			5	佐原組新田、手賀組新田
	13	東	1	三島、大島、境島、八筋川
			2	西代、飯島、佐原下手
			3	上之島、石納
			4	上須田
			5	本新
	14	北	1	伊佐部
			2	阿波崎
			3	下須田
			4	釜井
	15	西	1	幸田、光葉
			2	脇川、中島、平須
			3	福田
			4	市崎
			5	町田、東大沼
			6	清水、清水町田新田、新橋
				女性消防団
				市役所消防隊

消防団員数 939人 (R6.4.1 現在)

稲敷市消防団においては、将来の団員減少による消防団の空白地区が生じないよう、現在の分団を再編したうえで、各地区に77個の部を配置して相互に柔軟な災害活動が行えるようにしました。

令和5年度 消防団活動報告



- 4月 第1回分団長会議
- 5月 夏期訓練
二組合水防訓練（利根川水系）
- 6月 霞ヶ浦地区水防訓練
新入団員訓練
- 8月 花火大会警戒巡視
- 9月 第2回分団長会議
- 10月 県南南部地区操法競技大会
- 11月 稲敷市文化祭
秋期訓練
- 12月 出初式予行、放水訓練
- 1月 出初式
- 2月 冬期訓練
- 3月 妙義の鼻ヨシ焼き警戒
- 通年 水利確認、資機材点検、夜警



火災対応



水害対応



新入団員訓練（6月）



水防訓練



出初式 消防団による一斉放水（1月）



県南南部地区操法大会（10月）



第74回茨城県消防ポンプ操法競技大会 県南南部地区大会特集

令和5年10月22日に行われた、「第74回茨

城県消防ポンプ操法競技大会県南南部地区大会」において、稲敷市消防団を代表して、第34分団が小型ポンプの部に出場しました。結果は、準優勝という結果を収めました。二番員の池田惇団員は個人表彰を受賞しました。

6月から訓練を始め、厳しい暑さ乗り越えて大会に臨みました。大会にご協力・ご支援いただいたご家族や関係者の皆様には深く感謝申し上げます。選手たちの今後の消防団活動にも期待しています。



出場選手たちの声



指揮者
柳瀬 智浩

今大会は惜しくも準優勝という結果になりましたが、練習の成果を存分に発揮した結果なので後悔はありません。大会を経験し、得た経験・知識・技術を今後の消防団活動に生かしていきたいと思っています。

大会出場にあたり、ご指導・ご支援いただいた、いなほ署職員の方々の始め、家族や地区の方々のおかげで無事に操法大会を終えることができました。今後の消防団活動を通して少しずつでも恩返しをしていきたいと思えます。稲敷市を守る消防団の一員として今後も活動に励んでいきます。



一番員
坪井 俊規

みんなで一つの目標に向かって必死に取り組んだことが、何ものにも代え難い経験になりました。これからも地域の防災に努めていきたいです。



二番員
池田 惇

あと、一步のところまで優勝を逃してしまいました。サポートしてくれた方々のおかげで無事やりきることができました。いい思い出になりました。



三番員
柳瀬 修之

一生に一度体験できるか分からない操法大会に、約半年間稲敷市消防団として訓練してきました。楽しく辛い経験ができました。応援していただいた皆様に感謝しながら今後もご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



補助員
池田 和之

ご指導いただいた方、家族、仲間たちに感謝しています。操法大会を通して団の団結力が強まったと思えます。いい経験になりました。

女性

women's fire brigade

消防団



稲敷市女性消防団は平成22年に結成され、今年で15年目を迎えます。それぞれ仕事や家庭を持ちながら、市内全域から集まり、現在は10名で活動しています。

女性消防団は、男性の消防団と活動内容が異なり、火災時の消火活動などは行いません。女性ならではの視点や感性を活かしながら火災予防や防災啓発活動、救命講習のサポートなどを行っています。



文化祭

令和5年11月5日、江戸崎中央公民館まつりに非常時持ち出し品を展示しました。他にも「いなすけ」オリジナル缶バッジ作りや消防バイクとの記念撮影などたくさんの方にご来場いただきました。



非常時持ち出し品

災害から避難するときに持ち出すべきものをまとめた展示物を製作しました。家族構成により変わってくる必要なものがわかりやすくなるように工夫しました。イベント時などに展示しています。



茨城県女性消防団員活性化大会

令和5年12月14日に茨城県庁で開催されました。県内市町村の女性消防団が参加し、3市町村が活動発表を行いました。私達は防災クッキングに取り組む過程から開催に至るまでの活動を発表しました。



防災クッキング

災害時、身近にあるもので非常食をよりおいしく食べられる方法を学ぶことを目的とした防災クッキングを開催しました。令和4年度は江戸崎地区で16名、令和5年度は新利根地区で19名が参加されました。



表彰受賞者

瑞宝双光章

村塚 好一

(前消防団長)

永年勤続功労章(30年)

笹本 裕一

(第1方面隊 方面隊長)

來栖 易幸

(第1方面隊 副方面隊長)

小林 桂

(第3分団4部 団員)

宮本 孝信

(第5分団3部 団員)

植竹 光希

(第7分団2部 団員)

稲敷市消防団だよりタイトル「いろは」の由来

タイトルの「いろは」は、今日の消防団の前進と言われている江戸時代に設置された町火消「いろは四八組」から命名いたしました。消防団の歴史は古く、江戸時代の町火消、明治時代の消防組、昭和時代の警防組、そして昭和22年に今日の消防団として改組されていきました。

消防団は、地域における防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。

しかしながら、過疎化や少子高齢化に伴い若年層の新入団員が減少し、団員数の減少や消防団の高齢化が課題となっています。

消防団について、市民の皆様により一層知っていただくことを目的に、稲敷市消防団広報編集委員会では、稲敷市消防団だより「いろは」を作成することになりました。

編集後記

新型コロナウイルス感染症から丸3年が過ぎました。その間、我々、消防団も例外なく、マスク越しの消火活動、人と人との間には距離を取り合うことや各種訓練が否応なく中止ばかりで、今まで経験をしたことのない活動内容となり、狭められた感はありませんでした。

人口減少や少子化の影響で、消防団に入る適齢の若者が減少しており、今後、団員数が減少しても、新しい分団内で柔軟に協力しながら活動できるような消防団組織の再編を進めていきたいと考えています。地域に密着した消防団として、今後も住民の安心・安全な生活を守るため、努めてまいります。

そんななかで作成した広報誌で、見やすい分りやすい広報誌を目指して、作成しております。宜しく願ひ致します。(広報編集委員一同)



広報編集委員

中沢 仁

山崎 貴弘

篠崎 雅弘

金子 哲巳

成毛 宏嘉

関谷 美子

矢口 洋子

加藤 達也

島本 皓太

事務局

